上越・赤谷川本谷

2009年10月11(日)~12日(月) メンバー: L 釣、安藤、神戸(記)

10/11(日)

南アの兎洞から転進になったため、詳しい情報も調べないまま行くことになった。マットワノセンやドウドウノセンとはどんな所なのだろう・・。土曜の夜に水上のコンビニで前にいた山岳会の人達に会う。山友会に入った時も随分と若い人が代表なんだなぁと思ったけれど、その会の今の代表の人は30過ぎとさらに若い。道の駅に着くと三井さん達がすでにテントを張っていた。一緒に飲もうと言われたけれど、眠かったので遠慮することにした。翌日はそんなに早く起きることもなかったけれど、安藤さんが起きていたので、なんとなく早起きになった。

川古温泉に近づいて大きな橋の手前を右に入る細い道がわからず一回通り過ぎて戻った。古い旅館のすぐ先にゲートがあり、 手前の駐車場に車を停めた。旅館は周囲も中も雑然としていて、人の気配はあるけれど、本当に営業しているのかわからない感じがする。身支度をしている時から雨が降っていたけれど、雨の予報ではなかったので止むことを期待して歩き始めた。2 時間ちょっと川沿いの道を歩いて行くが細くて崩れかかった所が多かった。

渡渉地点から沢に入るが、雨は結構降っていて止む気配がない。なるべく濡れないように進むが膝位までは浸かるため寒い。マットワノセンを巻いて巨岩帯を通り、裏越しのセンに到着。滝の後ろを通る気にもならず、胸まで水に浸かって釜を渡り、左のルンゼから高巻いた。一度、沢に降りて休憩し、日向窪からドウドウセンを巻く。



【巨岩帯】



【裏越しのセン】

5 m位の滝を登って、次の滝の右のルンゼを登って支稜に出て岩場を右にトラバースする。結構な藪で足場も悪く、慣れない私と安藤さんは、とても時間がかかってしまい、暗くなる前に抜けられないのではないかと心配になった頃、ようやくドウドウセンの上の河原が見えてホッとする。スラブと草付きの境を下ってなんとか河原に辿り着き、河原から笹藪に少し入った風のない所にテントを張った。木がなかったので焚き火はせず、結構な寒さのためすぐテントに入って夕飯は中で食べた。

10/12(月)

朝もテントを出るとかなり寒い。歩き始 めてすぐ8mの滝に出て右岸をトラバース ぎみに登り始めるが、私はロープなしでは 行けなさそうだったので、笹藪に入って巻 くことになる。あまり上にあがらずトラバ ースするが、結構、急斜面で足場がなく笹 につかまっているだけで、寒さのため手の 感覚もなくなり落ちそうだった。戻っても う少し上にあがり、足場のある所を探して なんとか抜けることができた。3,4mの 滝をいくつか越えゴルジュ帯を過ぎると、 沢は開けて穏やかになり、周りの紅葉した 山も見えてきた。陽のあたる場所で休憩し て、ようやく体が温まった。最後の二俣を 左に入って稜線に出るつもりだったが、1 本手前の枝沢に入ってしまい、オジカの頭 の手前のピークの下のコルに出た。



【1480m 付近】



【稜線で一休み】

集中の時間には少し遅れてしまい、肩の小屋には最後に到着した。

コースタイム:

10/11(日)

7:20 川古温泉 9:40 毛渡乗越し渡渉点 11:05 マットワ下のセン 13:25 裏越しの セン 16:30 ドウドウセンの上の河原(テン場)

10/12(月)

テン場7:30 8:30 ゴルジュ 10:20 二俣を 左へ 11:30 登山道 13:15 肩の小屋

地形図:三国峠、水上